

# CAT-III運航について



G S：航空機がスムーズに滑走路に着陸できるよう、安全に降りられる角度を電波で発信する装置。

LOC：航空機に水平方向の誘導を指示する電波を発信する装置。

ILS：Instrument Landing System(計器着陸装置) GSやLOC等で構成される無線着陸援助装置の総称。

## ・CAT-III運航とは

広島空港は標高が330mと高く霧の発生確率が高い空港ですが、霧などの悪天候による視界不良時においても安全に滑走路まで誘導する無線着陸援助装置が設置されています。

より安全な着陸のためには滑走路の正確な方向、進入下降角度および進入コース上の位置を指示する無線着陸援助装置である「ILS」(※1)が必要となります。ILSを使用して着陸する場合、それぞれのカテゴリーに応じたRVR(※2)や決心高(※3)が決められており、カテゴリー(CAT)の数字が大きくなるほど高い安全性を有していると言えます。

カテゴリーにはI～IIIの3種類があり、広島空港ではCAT-IIIが運用されているため、RVRが100メートル以上あれば、自動操縦によって精密進入着陸を安全に行うことができます。なお、カテゴリーIIIの運航にあたっては、航空保安無線施設のほかに、航空灯火施設、RVR機器及び電源がカテゴリーIII運航に供することができる状態かつ、航空機の装備、パイロットの資格が整っている必要があります。また、空港設備の状態により、離陸の条件にも影響を与えます。

※1 ILS：Instrument Landing System(計器着陸装置)

GSやLOC等で構成される無線着陸援助装置の総称。

※2 RVR：Runway Visual Range(滑走路視距離)パイロットが滑走路を見通すことの可能な最大距離。

※3 決心高：着陸しようとする航空機が進入継続の可否を判断する高さ。その高さで滑走路等が見えなければ着陸をやり直すことになります。

出典:国土交通省ウェブサイト ([https://www.mlit.go.jp/koku/15\\_bf\\_000327.html](https://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000327.html))